

ボランティア・市民活動情報誌 OITA ぼらのたね

URL ☎ <http://www.coara.or.jp/~oitavoc/> E-mail ✉ oitavoc@fat.coara.or.jp

発行所
社会福祉法人 大分県社会福祉協議会
大分県ボランティア・市民活動センター
〒870-0907
大分市大津町2丁目1番41号
TEL (097) 558-3373
FAX (097) 558-1296

2007 JANUARY
No.6

ぼらのたねの「2007年問題」考 大分県内の6万6千人の団塊世代のみなさま 定年後はおいでませ！ ボランティア・市民活動の世界へ

いよいよ2007年。この年から3年間、日本の人口の約5%を占める「団塊の世代」（1947～49年に生まれた人たち）が60歳定年を迎え一斉に退職することを「2007年問題」といいます。ちまたで話題ですが、問題問題って何が問題なのでしょう？それは「企業活動の根幹部分を支えてきた、専門的知識や技能を有する人材が一斉に会社を去ることにより、マニュアル化しづらい現場固有の技術の継承が困難になる恐れのみならず、それによって企業活動自体が停滞する恐れがあるとされる。」とのこと。なるほど。企業だけが抱える問題？いえいえ、それだけではなく、年金などの社会保障費の給付が増えて働く世代の負担が増加することも心配されています。しかし一方で、「退職金が消費に回る」「退職者が都会から地方へ移住する」「ボランティアする人が増える」といった面で期待されています。

当の本人たちはさておき、さまざまな分野で団塊の世代を取り込もうと市場はすでに過熱気味。ぼらのたねとしてもこの機会に多くの人にボランティア活動を好きになってもらいたい！でも団塊世代ってどんな人たちなのでしょう？そしてボランティア活動に参加してもらうためにはどうしたらいいんでしょう？うーん 分からない！そこで今回のぼらのたねは団塊世代のハートに近づくための作戦を考えます。

作戦その1 おいちゃんのつぶやきから「団塊世代」を知る！

府内町の居酒屋から団塊のおいちゃんたちのつぶやく声が聞こえてきましたよ。耳を傾けてみましょう。

Kさん 世間では「2007年問題」とやらがやかましく取り沙汰されちよんらしいで。

Kさん あー懐かしいな。俺らのガキン頃に比べたら今ん子どもは物だけは恵まれちよんで。

Hさん 団塊の世代の取り扱いについて「技術の後継者がおらんことなる」「彼らの持つ知識を有効活用しよう」「地域で活躍すべきだ」とか言うち、行政も企業も、はては「NPO」とやらまでもが侃々諤々(かんかんがくがく)の状況にあるっち。

Hさん 我々の世代は数が多いちゆうことだけで、生まれながらにして競争社会の洗礼を受けてきたしな。成長するにつれ、受験地獄、就職戦線、就職してからも「モーレッツ社員」だ「企業戦士」だと揶揄されながら高度成長社会を支えてきたんでなあ。

Kさん そうそう。2007年から3年間、時間と金と知恵と技術を持って世に流出してくるち言うち、いろんな奴らが俺たちんことを「貴重な社会資源」とか言うち狙っちよんらしいけど、「やかましい」「いらん世話や」とでも叫びたくなるよな。

Kさん 数は多いけど「団塊の世代」は決してひとつの固まりじゃねえでなあ。競争の激しい時代を生き抜いてきた自負もプライドもあるんやけん。おとなしくしちよつたら存在感を認められん環境を生き抜いち来たんやけん。自己主張も個性も強い奴が多いで。ようするに、一筋縄ではいかない「個」の集団ちゆうやつやな。

Hさん そうっちゃ。ほっとけー！！
(そして二人は昔の話を…)

Hさん そうで。俺もおまえもな。俺らをどうのこうの「てご(※大分弁でお手伝いの意)」として使っちやろうなんち100年はえーわ！

Hさん 我々の親父世代は戦争に青春を奪われ、命からがら終戦をむかえた。多くの復員兵の帰還、物資不足の中での結婚、そして第1次ベビーブームがおきた。「ギブミーチョコレート」はさすがに記憶にねえけど、脱脂粉乳とコッペパンがメインの給食。当時は当たり前やったからかさや生ゴムだけのズック靴。あかぎれやしもやけだらけの手。青っぱなで袖口がびかびかに光る一張羅の学生服。腰のベルトに竹をさしたガキ大将。現実的に「三丁目の夕日」の世界やったなあ。

うーん手強い。団塊の世代を地域活動やボランティア活動にお誘いするのは何だか難しそう？でも、彼らが魅力を感じたり、価値観を満足させるような内容のプログラムを用意できれば、「モーレッツ社員」ばりに知恵と時間の提供は惜しまないのかも…！?

作戦その2 キラキラ輝くシニアリーダーに聞く！

「だから、私はボランティア活動を勧める」

長年の会社勤めを終え地域社会で活躍中のシニアリーダーにお知恵を拝借するためにインタビューしました。まだつかめない団塊世代のハードに近づくためにも、先輩、ここまでたどってきたボランティアの道、聞かせてください！

Mr. YANO



☆地域でキラめくシニアリーダーに聞きたい6つの質問☆

- Q1. 退職前のお仕事について教えてください
- Q2. 現在取り組んでいるボランティア・市民活動について活動内容を教えてください
- Q3. その活動に参加するようになったきっかけを教えてください
- Q4. 今話題の「団塊世代」や「2007年問題」についてどう思いますか
- Q5. スバリ聞きます！どうやったら団塊世代はボランティア・市民活動に参加すると思いますか
- Q6. 団塊世代に向けて何かメッセージをどうぞ

Mr. IWASAKI



☆ボランティア活動はあなたが生きる「創意工夫・能力発揮」の場！
矢野 英雄さん(NPO法人 障害者UP大分プロジェクト理事)

- Q1 英和(株)で計測機器・システムの営業
- Q2 障がいを持つ人へのIT支援
- Q3 一緒にボランティア活動をしていた人からの誘いでしたが、もともと障がい者支援をしたかったのとパソコンをもっと勉強したいと思っていたので、その二つがぴったりと重なった活動です。
- Q4 「2007年問題」は地域やNPO等への有能な人材供給の機会です。彼らは「組織」というものを知っている「勤め人世代」で、組織運営にはチームワークが必須。ボランティアは最初は善意で人が集まったとしてもそのうち各人の個性がでてきてやりにくくなる場合がありますが、企業に勤めた経験があるとチームワークの重要性を知っているため経験が活かされるのではないのでしょうか。また「多くの定年退職者」＝「若い方の就業と収入安定」に繋がるといいですね。
- Q5 自治会の班長など順番で回ってくる義務的なもので地域活動に参加する、本人が自発的にそうしたいと思っている要素を「くすぐる」ようなしなかけを考える、などでしょうか。みんないずれ老いるので高齢者問題に対しては意識が高いですね。うちのNPOで研修会を開いた時それをうまく利用して、加齢に伴って目が見えにくくなる・耳が聞こえにくくなる・足腰が弱くなるといった老化現象＝「障がい」ととらえることで、障がい者問題は自分自身の問題でもあるんだと参加者に気づいてもらったことがあります。
- また「IT講師養成講座」では名前が堅くて人が集まりにくかったのですが、研修内容は同じでも「ITサポーター養成講座」と名称を変えたら参加者が増えました。受け入れ側も気軽に参加しやすい方法を考えることが必要です。企業も退職前から社員に対して退職後の生活を考えるための取り組みをするべきだし、社会福祉協議会も企業に出向き、在職中からボランティアとして社会参加するためのアプローチをするべきではないでしょうか。
- Q6 退職後の別の生き方をはっきり持っておられれば別ですが、働ける間は働いた方が物心両面でプラスです。しかし働いている間も晴耕雨読ではなく、知識と経験を活かした次の活動を探してみてください。

☆一生チャレンジ！定年後は社会への恩返しを
岩崎 祐一さん(ボランティアグループ 厚板OB会 代表)

- Q1 新日本製鐵(株)の厚板工場勤務
- Q2 主に障がい者関係のイベントの手伝い。会員は全員、新日鐵の厚板工場に勤めていた男性なので、男手が多く必要とされる行事で重宝されています。その他、環境美化活動や大分トリニータの試合時の案内ボランティアなど。障害者スポーツ指導員の資格も持っています。ボランティア活動だけでなく、趣味の古建築・眼鏡橋めぐりも楽しんでいます。
- Q3 新日鐵を退職後、韓国で3年間働いた時、韓国の人たちに非常に親切にしてもらいました。その恩返しをしたいと思っていた時に地元でFIFAワールドカップが開催されることになり、ボランティアで参加すれば恩返しもでき、さらに試合が無料で見られるのではと思ったのがきっかけです。ワールドカップの時はホームステイの受け入れもしました。
- Q4 仕事がんばって日本を成長させてきた世代。退職後はもう人間関係に気を使わず悠々自適な生活を送りたいと思っている人も多いでしょう。それに何か新しいことを始める時にはエネルギーが要るから、それを嫌がってしない人が多いようにも思えます。でもいつまでもいろんなことに好奇心を持ち、何かに挑戦することを勧めたいです。団塊世代よりもそれ以降の世代に気力がないのが気になります。知識はあっても創造性がないようにみえます。
- Q5 彼らの能力を活かせる場をつくる必要があると思います。
- Q6 失敗を怖がらず、物の見方と考え方を徹底的に変えましょう。いつまでも元気でいたいと思ったら「人を相手にすること」がお勧め。ボランティアすればいろんな人と会えるので力をもらえます。あなたがここまでがんばってこれたのは周囲の手助けあってこそ！今度はその恩を返していく番ですよ。

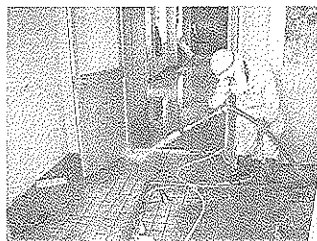
定年後の自由な時間などをどのように使うかはもちろん人それぞれ。でも、仕事でも趣味でもボランティア活動でもなんでも、自分を一生懸命続けるって素晴らしいですね！大分県ではH19年1月より、50歳以上を対象とした「ベテラン人材バンク」を開設しています。詳しくは大分県県民活動支援室(TEL097-506-2043)までお問い合わせください。県ポラでもご相談をお受けしていますので、あなたの輝く活動の場、一緒に探してみませんか？



▲地震発生後の重機を
使った作業のようす
(H16 新潟県)

▼『ボランティア』という言葉が安易に使われているような気がしています。みなさんはその言葉からどんな連想をしますか?▼日本には昔から「奉仕の心」が根強く残っており、海外から入ってきた「VOLUNTEER」という概念「奉仕」だと思われがちです。しかし奉仕は英語ではSERVICEといいVOLUNTEERとは別なもの。ボランティア活動は無償の奉仕活動ではありません。例えば、活動先に行くためには交通費がかかりますよね。そのような必要経費を誰が負担するかによって、受益者(ボランティアによって支援を受ける人)にとって有料であったりしますが、ボランティアを無償の労働力だと勘違いしている方がいらっしやるようなのでとても気になっていきます。▼ここからは災害編のお話です。災害時は危険が伴うので、知識とともに特殊な技能や資格、資材や機材(以後、資機材)がないと活動で

きない場合があります。行政が企業等と協定を結んで行う専門的な活動は、社会全体に関するものに対してです。個人に対して行政が支援を行うことは、特別な場合を除いてありません。▼幸いなことに大分県では、平成7年に発生した阪神・淡路大震災を教訓にして、平成9年度より「大分県災害ボランティア」として特殊技能や資格・資機材を持つている団体に登録をお願いし、団体間の連携や研修を重ねてきています。登録団体には、災害が発生した場合それぞれが持つ技能・資格・資機材を提供してもらいます。しかし各団体には本業があり災害時にも当然そちらが優先されます。本業と並行して行う災害ボランティア活動に必要な経費までを、ボランティア活動だからというだけで全て各自の負担ということでは良いのでしょうか。▼ボランティア活動は自発的なものなので断ることもできます。しかし、被災者が一日も早く生活を再建



▲業務用の高圧洗浄機は
水害発生時に大活躍!
(H18 宮崎県)

するためには、このような方々の力を借りることが不可欠です。そのために「大分県災害ボランティア」の事務局としては、資機材を動かすガソリン代や技能を持った方の移動費等必要最低限の経費は活動経費として負担することや、活動がスムーズに遂行できるように各関係団体が平常時から連携を深める会議や研修等の支援も当然必要と考えています。▼「大分県災害ボランティア」は多種多様な団体が登録している全国的にも珍しい組織です。平常時からどのようなことに協力できるかを、団体として真剣に検討を重ねています。ですから事務局としては、被災された方々に対して各団体が適切かつ迅速な活動ができる環境を整える必要があります。これは大分県民が安心して安全に暮らせるということにつながる重要な活動です。一人ひとりの命と暮らしを守るその活動があまり理解されず、どうも『ボランティア』という言葉に惑わされて本質を見過しているように思えるのですが…いかがでしょう?(文責/村野)

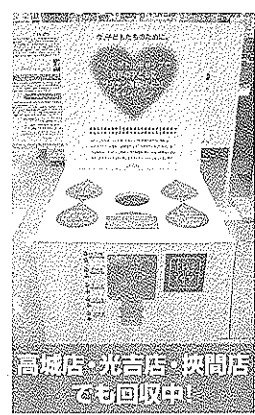
「大分県災害ボランティア」は個人の方も登録できます。詳しくは県ポラまでお問い合わせください。

ぼらのがた

ボランティア・市民活動に役立つマメ知識

ペットボトルのキャップがワクチンに変わる?の謎

「キャップを原料にワクチンを作る画期的な技術ができたの?」いいえ、そうではありません。11月10日より「ペットボトルキャップで世界の子どもにワクチンを届けようキャンペーン」を開始した、イオン九州(株)JUSCOパークプレイス大分店の田中店長に詳しいお話を伺うと「このキャンペーンは店舗に設置している回収BOXに洗浄済みのキャップを集めて専門業者に買い取ってもらい、その益金を「NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」へ寄付することにより必要なワクチンを購入してもらう、という流れになっています。2万個集めると1人の子どもにワクチンを届けることができ、当店では年間300人の途上国の子どもを助けることを目標にしています」とのことでした。2万個×300人=6百万個!ものすごい数です。ペットボトルとキャップは異なる原料できており、大分市の「家庭ごみの出し方」でもペットボトルは「資源ごみ」で、キャップは「不燃ごみ」になっています。知ってましたか?資源もリサイクルされ、子どもの命も救えるというまさにWIN-WINなこのキャンペーン。あなたが今飲んでるペットボトルから始めよう!



ボラけいじばん

■平成18年度ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰状および感謝状受賞者決定

○厚生労働大臣表彰

〈個人〉 田村 加代子さん(大分市)

17年間、視覚障がい者向けの録音図書製作に従事

〈グループ・団体〉 ボランティア直川(佐伯市)

約25年間、給食サービスや福祉施設での行事手伝いなどに従事

〈学校〉 明豊高等学校(別府市)

約35年間、全校あげてさまざまな福祉活動を実践

○厚生労働大臣感謝状

〈個人〉 近藤 満さん(大分市)

長期間にわたり点字図書の製作や点訳奉仕者養成講習会の講師を務める

〈グループ・団体〉 大分県美容業生活衛生同業組合宇佐支部(宇佐市)

約35年間、会員による調髪ボランティア活動を実践

〈グループ・団体〉 さくらんぼの会(豊後大野市)

約15年間、福祉施設で本の読み聞かせや行事の手伝いに従事

■(社)全互協第8回社会貢献基金助成公募のお知らせ

助成対象: 高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、環境・文化財保全、国際協力・交流、調査研究事業など社会貢献に資するあらゆる事業。法人格の有無は不問。研究助成は個人も応募可。

助成金額: 1件あたり200万円以内(総額1,000万円)

応募締切: 平成19年2月末日

(社)全互協HP(<http://www.zengokyo.or.jp>)

より応募書類をダウンロード出来ます。

お問い合わせは: 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
事務局(担当: 山村)まで
東京都港区虎ノ門3-6-2第2秋山ビル
TEL 03-3433-4415



■NHK学園高等学校専攻科「社会福祉コース」

平成19年度学生募集

社会福祉コース(修業年限2年)は、これからの地域社会で活躍が期待されているボランティアリーダーの育成と介護の専門職である介護福祉士の養成を目的としています。

・募集期間 平成19年2月1日～3月1日 ※必着

・入学選考 出願書類(作文等)により選考

・出願資格 高等学校卒業以上(平成19年3月卒業見込含む)

・学費など 入学選考料3,000円 入学金20,000円、授業料120,000円(年額)

・取得資格 必要な単位を修得した方は「介護福祉士国家試験受験資格」取得

お問い合わせ、入学案内書(付願書)の請求は下記まで。案内書は県ボラにもあります。

〒186-0001東京都国立市富士見台2-36

NHK学園高等学校専攻科

TEL 042-572-3151(代)

URL <http://www.n-gaku.jp/wel>



■子育てを考える研修会に参加しませんか

日 時: 平成19年2月25日(日) 10:00～15:00

会 場: 大分県立生涯教育センター(別府市野口原)

テ ー マ: 「子育て 親育ち 大分で子育てがしやすいように」

内 容: 岸 信子さん(熊本在住の10人のお子さんの母、エッセイスト)による講演、グループ討議&提言

託児あり(要事前申込)。お問い合わせ・申込は子育てネットワーク大分(担当: 宮崎) TEL: 0979-25-1587

または香ヶ地青少年の家 TEL: 0978-54-2096

FAX: 0978-54-2152まで。2/22締切。



収集 ボランティアさん * * * * * * つもありがとう

使用済みプリペイドカード、使用済み切手、書き損じハガキの収集等にご協力いただいた皆さんをご紹介します。(敬称略)

●多摩化学工業株式会社 ●おおいた女性倶楽部「萌」

●(社)大分県薬種商協会

※皆さまから寄せられた使用済み切手はH18.11月に神戸市の「誕生日ありがとう運動本部」に寄付いたしました。知力ハンディキャップ問題の社会啓発のために使われます。



ボランティア・市民活動についてのご相談・お問合せは...

社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 **大分県ボランティア・市民活動センター**

■開所時間

月曜日～金曜日 8:30～17:15

〒870-0907 大分市大津町2丁目1番41号

TEL(097)558-3373・FAX(097)558-1296

■ボランティア・市民活動ルーム開室時間

月曜日～土曜日 9:00～20:30

日曜日、水曜日 9:00～17:00

平日の17:00以降及び土、日、祭日は事前に予約

<http://www.coara.or.jp/~oitavoc/> E-mail: oitavoc@jat.coara.or.jp

編 集 後 記

久しぶりに学生時代の友人たちと再会。理系だったのでほとんどが企業に勤めており「ボランティア?」状態。これが世間一般の反応だと現実を見つ、今回特集した「2007年問題」に関して、仕事一筋に長年がんばってきた人が定年を迎え所属や肩書きがなくなつた時、何をしたいのだからと亡き父の姿を思い浮かべながら考えました。うちの父ならパチンコ三昧の生活?それもいいけど、人から刺激を受けつつまでも若々しさを保てるボランティア活動はオススメなんだけどなあ。